

カフェインレスコーヒーの抗酸化作用に関する研究

4B 龍舞果 指導教員：渡辺睦行先生

緒言

・コーヒーによる生活習慣病予防効果は、ポリフェノールであるクロロゲン酸の抗酸化作用によるものであることが報告されている。
・コーヒーに含まれるカフェインの過剰摂取は、中毒や妊婦、胎児、乳幼児、小児への悪影響がある。

↓
・本研究では、カフェインレスコーヒーのポリフェノール量と抗酸化作用を測定することで、カフェインレスコーヒーには生活習慣病の予防効果があるのかを明らかにすることを目的とした。

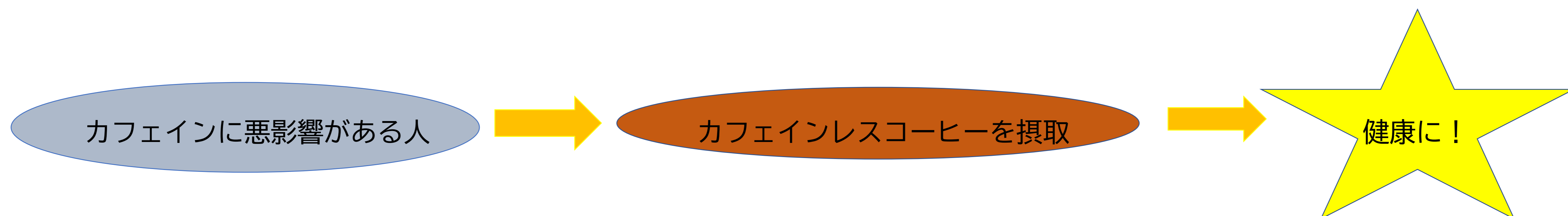
方法

ドリップレギュラー、ドリップカフェインレス、インスタントカフェインレス、インスタントレギュラーをインスタントは、粉 2g に対し、水 150 cc、ドリップは、粉 6 g に対し、水 200 cc で抽出した。

50倍希釈
DPPHラジカル消去能を用いた抗酸化作用の分析
総ポリフェノール量

考察

カフェインレスコーヒーには、通常のコーヒーには劣るものの抗酸化作用があると推測される。抗酸化作用の強さは、それぞれのコーヒーに含まれるポリフェノール量に依存していた。また、妊婦がカフェインレスコーヒーを飲むことで、カフェインの過剰摂取による弊害を防ぎながら抗酸化作用の恩恵を受けることができると示唆された。



結果

インスタントレギュラー>インスタントカフェインレス>ドリップレギュラー>ドリップカフェインレスの順でラジカル消去能が強かった。ポリフェノール量も同様の結果となった。

